

『耳納風土記』 ①平川家住宅



▲ 平川家住宅（正面）

うきは市には白壁の町並みで有名な筑後吉井伝統的建造物群保存地区と茅葺民家が残る山村集落の新川田箆伝統的建造物群保存地区があります。今回はその2つの伝健地区の内、新川田箆に残る国指定重要文化財建造物平川家住宅についてご紹介します。

平川家住宅は、筑後川の支流である隈上川沿い、田箆地区の山間部にあります。およそ200年前の幕末に建てられた旧家です。

筑後川流域には屋根が凹字形になる通称「くど造り」と呼ばれる民家が分布しています。その中でも平川家住宅の「くど造り」は規模が大きく、主屋と納屋が並列するかなのような特徴的な外観は「くど造り」を発展整備したものとしてその価値を評価されています。

「くど」とは煮炊きを使うカマドのことで屋根がこの「くど」に似ていることから「くど造り」と呼ばれています。その他、風呂のかわりの「ゆどの」は全国的に見ても珍しく、竹敷きの上で米ぬかを使って体を洗い、その洗いが下に落ち、「しもご

え」と混ぜて畑などの肥料として使っていたことがわかっており、当時の人々の暮らしが垣間見える民家です。

昭和46年に国指定重要文化財に指定され、今も所有者様によって大事に保存公開されています。今年度は茅葺屋根の修理が行われますので、6月には修復された平川家を見ることが出来ます。



▲ くど

● 問合せ 生涯学習課文化財保護係 Tel.75-3343

